

あぶろうち

つながろう
NIPPON 連合

災害情報

連合群馬災害対策救援本部ニュース No.13 2011.07.19

1. 岩手県でボランティア「報道にはない現実を知る」

6月27日(月)～7月3日(土)、連合関東ブロック「第8次派遣団」に山端副事務局長が参加しました。

具体的な救援活動は、岩手県住田町を拠点に大船渡市で、食料品など支援物資の仕分け、冬物衣類などの移動、毛布などの仕分け、仮設住宅への生活用品搬入、マンションの瓦礫撤去・側溝清掃を行いました。

作業終了後、津波の被害が大きかった陸前高田市の現地視察で、360度瓦礫が散乱し、撤去作業が重機で行われている所を確認、気仙沼地協の吉野事務局長より震災当日の避難する様子など実体験をお話しいただく機会や作業の休憩時には、現地ボランティアやマンションのオーナーからのお話が聞け、報道にはない現実を知ることが出来ました。



瓦礫や津波で流された生活用品の撤去作業(中央:山端副事務局長)

気仙沼地協:吉野事務局長談

職場のフォークリフトに乗って製品を製品棚に挙げる作業をしていました。作業を終えフォークリフトの爪を抜く作業中大きな揺れにより作業を中断し駐車場に逃げました。車で高台に逃げる途中の道は、大渋滞。何とか逃げ切り、一命を取り留めました。

その逃げる途中のお話は、大変ショッキングでした。車は大渋滞。歩道にも走って逃げる方がたくさんいる中、一台の車が歩道を走り出したそうです。その車は、歩道を逃げる人々を次々に跳ね飛ばし、一台が歩道を走ると後を続く車が次々と続いたそうです。その光景はまさに地獄絵図。今でも夢でうなされ、夜中「津波だ。逃げろ」と寝言を言うそうです。

私たちは、このボランティアを通し、復旧・復興作業はもちろん、現場の現実を多くの方々に伝える使命を担っていると感じました。

(関プロ救援ニュースから引用)

2. 青年委員会が街頭カンパ活動を実施

6月25日(土)午後、青年委員会はベイシア大泉店で救援カンパを実施しました。当日は、買い物客の親子連れの方々より18,687円の協力をいただきました。青年委員会は、当日午前中、青年層で実施したタグラグビー交流会の参加者からもカンパを募り、13,232円を集約しました。



買い物客に呼び掛け(ベイシア大泉店)



快く協力をいただきました(三洋ランド)

3 . 渋川地協が気仙沼でボランティア「人とのつながりを実感」

渋川地協は、6月24日(金)～26(日)宮城県気仙沼市へボランティア活動に構成組織17名が参加しました。

活動内容は、個人のお宅の田んぼのガレキ、塩分を含んだわらの撤去作業を行い、慣れない一輪車の作業も大変でしたが、家族の方から感謝の言葉を頂き、疲れも忘れてしまう程の良い出会いがありました。

気仙沼漁港周辺はガレキの撤去が、ほぼ終わっていて建物の基礎のみ残っていました。その景色を見ていると言葉にならない程の感情が込み上げて来ました。現地において自分の目で確かめ、短い間ではありましたが、少しでも復興の力になれた事を嬉しく思い、人とのつながりを実感したボランティア活動でした。



4 . 連合本部に寄せられた義援金を被災地へ

連合本部は国内外から寄せられた約7億3千万円の配分先を、6月16日に開催した第22回中央委員会で決定し、各被災地へ交付しました。

配分先	交付額	交付日	詳細掲載
岩手県	2億円	6月20日	本部ニュース NO41
福島県	2億円	6月23日	本部ニュース NO42
宮城県	2億円	7月4日	本部ニュース NO43
千葉県・茨城県	各2000万円	6月29日	

なお、義援金のほかに連合被災地救援ボランティア活動の諸経費とし3,500万円を充てています。配分を超えるカンパは後日検討されます。

5 . 今後の取り組みを確認しました

連合群馬は、関プロと最大限の協力を行う中、8月から9月に被災地救援ボランティアへ産別から派遣することを執行委員会で決定しました。

ボランティア：産別から3名募集を行い、7月31日から9月30日まで岩手県を中心に3泊4日のリレー方式で派遣します。

救援カンパ：11月末まで連合群馬は毎月2回、大型商業施設や駅頭で、地協は月1度、街頭カンパや行事参加者への呼びかけなど取り組みを展開します。

以上